

証券コード4651

SANIX

2013年3月期
第2四半期 決算説明会

株式
会社 **サニックス**

2012年11月12日

(注) 数値については、単位未満を切り捨てて表示しております。

目次

1. 2013年3月期 第2四半期の概況 P. 1

2. 2013年3月期 業績見通し P. 10

免責事項

本資料には、将来の業績予測に関する記述が含まれています。こうした将来の業績予測に関する記述は、将来業績を保証することを意図するものではなく、一定の前提条件と経営陣の現時点で入手可能な情報に基づく判断に基づくものです。従いまして、将来時点における実際の収益及び業績は、こうした将来の業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。

以下の要因により、将来時点における当社の業績は、本資料内の将来の業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。

日本の景気動向、日本のサービス業の業績動向、他のサービス業者との競争環境、技術革新、規制環境、法律環境及びその他の弊社の予測を超える様々な要因

本資料は当社が発行する証券への投資を勧誘することを企図した資料ではありません。本資料に含まれる情報に基づいて発生した損失・債務に関して、当社は一切の責任を負わない旨をご了承下さい。

2013年3月期 第2四半期の概況



第2四半期 決算概況

当第2四半期累計実績については、前期比増収増益

売上高	：	18,184百万円	（前期比増減額	+2,731百万円）
営業利益	：	524百万円	（前期比増減額	+257百万円）
経常利益	：	508百万円	（前期比増減額	+271百万円）
当期純利益	：	379百万円	（前期比増減額	+379百万円）

◆売上高◆

HS事業部門においては太陽光発電システム販売、ES事業部門においては防錆機器取付施工が前期比で堅調に推移。また、環境資源開発事業部門においては、プラスチック燃料収入が前期比大幅な増収となったほか、安定的連続運転や定期修繕の工期短縮による稼働率の改善等によって売電収入が前期比増収となり、全事業部門ともに前期比増収となった。

◆利益面◆

HS事業部門において、原価率の高い太陽光発電システムの販売比率が上昇したことにより前期比減益となったものの、資源循環型発電事業では前期比大幅な増収効果により、大幅増益となった。

その結果、グループ全体の営業利益は前期比増益の524百万円となった。

第2四半期 損益の実績と計画差異

	2012/3期		2013/3期					
	第2四半期累計		第2四半期累計					
	実績値	売上比	実績値	売上比	前期比	計画値	計画比	計画差異
売上高	15,452	100.0%	18,184	100.0%	117.7%	18,940	96.0%	△ 755
H S 部門	8,868	57.4%	9,320	51.2%	105.1%	10,590	88.0%	△ 1,269
E S 部門	1,341	8.7%	1,452	8.0%	108.3%	1,480	98.1%	△ 27
環境資源	5,243	33.9%	7,411	40.8%	141.4%	6,870	107.9%	541
売上原価	10,060	65.1%	12,338	67.9%	122.6%	12,691	97.2%	△ 352
売上総利益	5,392	34.9%	5,846	32.1%	108.4%	6,249	93.6%	△ 402
販管費	5,125	33.2%	5,321	29.3%	103.8%	5,614	94.8%	△ 292
営業利益	266	1.7%	524	2.9%	196.6%	635	82.6%	△ 110
経常利益	237	1.5%	508	2.8%	214.5%	615	82.7%	△ 106
当期純利益	△0	—	379	2.1%	—	540	70.2%	△ 160

■環境資源開発事業部門において資源循環型発電事業が計画比増収となったものの、HS事業部門における太陽光発電システム販売店向け卸販売及びシロアリ防除施工をはじめとした既存商品販売が計画比減収となった。利益面では、当第2四半期(7月～9月)における営業利益は、環境資源開発事業部門が全体を牽引し計画比増益となったものの、当第1四半期における計画比減益をカバーするまでには至らず、当第2四半期累計では計画比減益となった。

第2四半期 セグメント別損益の実績と計画差異

(単位:百万円)		2012/3期		2013/3期					
		第2四半期累計		第2四半期累計					
		実績値	前期比	実績値	売上比	前期比	計画値	計画比	計画差異
HS 部門	売上高	8,868	102.2%	9,320	100.0%	105.1%	10,590	88.0%	△ 1,269
	売上総利益	4,477	89.4%	3,456	37.1%	77.2%	4,130	83.7%	△ 673
	販管費	2,837	103.2%	2,640	28.3%	93.0%	2,819	93.7%	△ 178
	営業利益	1,639	72.5%	816	8.8%	49.8%	1,311	62.3%	△ 494
ES 部門	売上高	1,341	101.4%	1,452	100.0%	108.3%	1,480	98.1%	△ 27
	売上総利益	427	85.4%	476	32.8%	111.6%	505	94.4%	△ 28
	販管費	439	114.7%	425	29.3%	96.9%	440	96.7%	△ 14
	営業利益	△ 12	—	51	3.5%	—	65	78.5%	△ 13
環境 資源	売上高	5,243	113.8%	7,411	100.0%	141.4%	6,870	107.9%	541
	売上総利益	487	82.7%	1,912	25.8%	392.2%	1,614	118.5%	298
	販管費	758	97.3%	1,119	15.1%	147.7%	1,166	96.0%	△ 46
	営業利益	△ 270	—	792	10.7%	—	448	177.0%	344
配賦 不能	営業利益	△ 1,090	—	△ 1,136	—	—	△ 1,189	—	52

第2四半期 損益の実績と計画差異

(単位:百万円)		2013/3期					
		第1四半期			第2四半期		
		実績値	計画値	計画差異	実績値	計画値	計画比
売上高	8,822	9,165	△ 342	9,361	9,775	95.8%	△ 413
H S 部門	4,501	5,065	△ 563	4,818	5,525	87.2%	△ 706
E S 部門	723	730	△ 6	729	750	97.2%	△ 20
環境資源	3,597	3,370	227	3,814	3,500	109.0%	314
売上原価	6,268	6,202	66	6,069	6,489	93.5%	△ 419
売上総利益	2,554	2,963	△ 408	3,292	3,286	100.2%	6
販管費	2,669	2,835	△ 165	2,652	2,779	95.4%	△ 126
営業利益	△ 115	128	△ 243	639	507	126.2%	132
経常利益	△ 115	123	△ 238	624	492	126.9%	132
当期純利益	△ 170	86	△ 256	549	454	121.1%	95

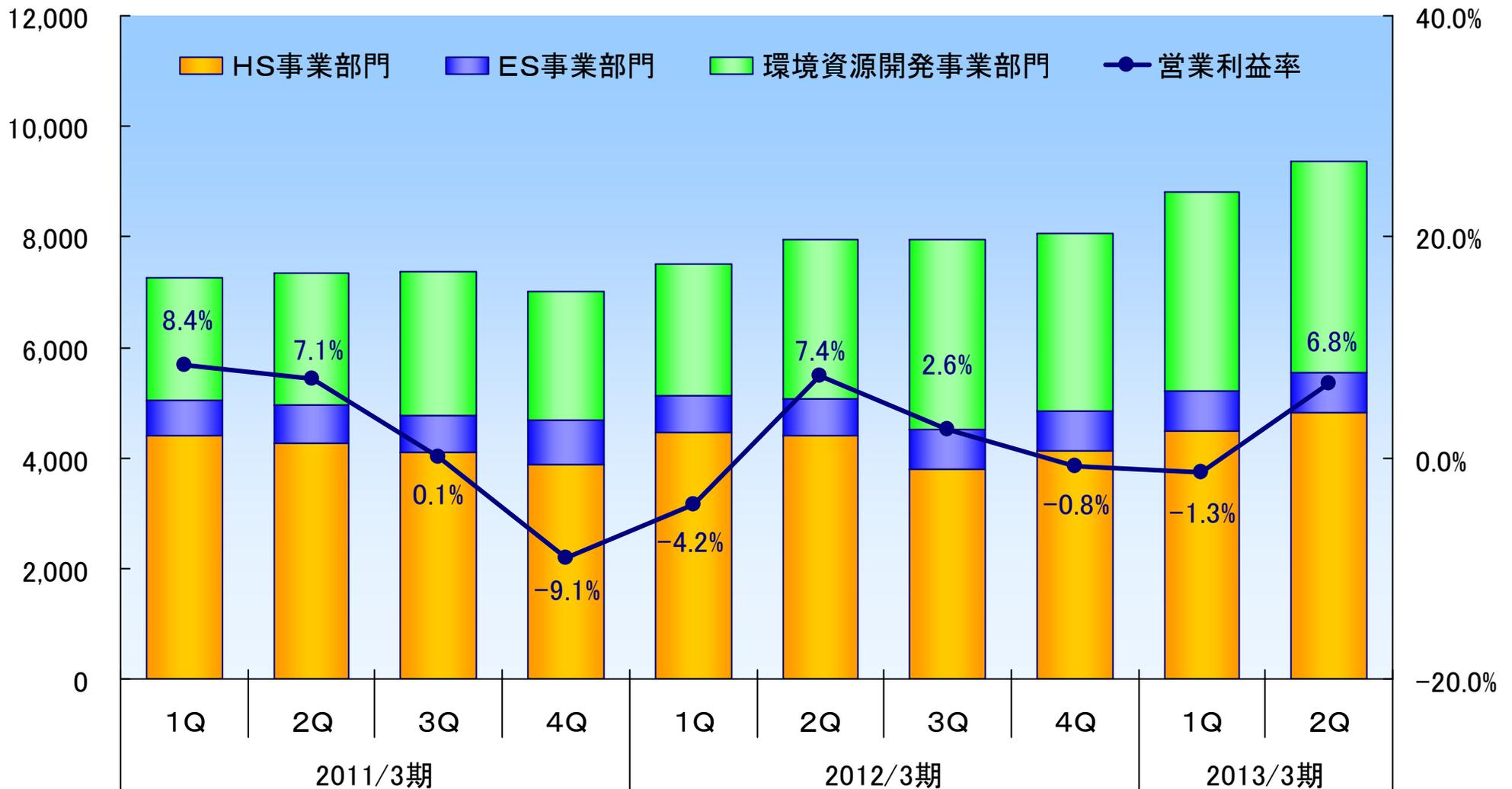
第2四半期 セグメント別損益の実績と計画差異

(単位:百万円)		2013/3期						
		第1四半期			第2四半期			
		実績値	計画値	計画差異	実績値	計画値	計画比	計画差異
HS 部門	売上高	4,501	5,065	△ 563	4,818	5,525	87.2%	△ 706
	売上総利益	1,472	1,940	△ 467	1,984	2,190	90.6%	△ 205
	販管費	1,351	1,404	△ 52	1,288	1,415	91.1%	△ 126
	営業利益	121	536	△ 414	695	775	89.7%	△ 79
ES 部門	売上高	723	730	△ 6	729	750	97.2%	△ 20
	売上総利益	223	255	△ 31	252	250	101.1%	2
	販管費	212	217	△ 4	213	223	95.6%	△ 9
	営業利益	11	38	△ 26	39	27	146.6%	12
環境 資源	売上高	3,597	3,370	227	3,814	3,500	109.0%	314
	売上総利益	857	768	89	1,055	846	124.7%	209
	販管費	563	573	△ 9	556	593	93.8%	△ 36
	営業利益	294	195	99	498	253	197.1%	245
配賦 不能	営業利益	△ 542	△ 641	98	△ 593	△ 548	—	△ 45

第2四半期 セグメント別四半期推移

■セグメント別 売上高・営業利益率の推移

(単位:百万円)



第2四半期 HS事業部門

■太陽光発電システムユーザー向け直販は堅調に推移するも全体では計画比減収

シロアリ防除施工をはじめとした既存商品販売について、繁忙期の依頼件数が想定を下回ったため、太陽光発電システム販売を積極的に推進。その結果、営業一人あたりの生産性が向上し、ユーザー向け直販においては当第2四半期累計で計画比増収となったものの、販売店向け卸販売においては、従来よりも手続に時間を要する産業用太陽光発電システム案件が増加したこと等により計画比減収となった。その結果、太陽光発電システム販売は計画比減収となり、部門全体で計画比減収減益となった。

(単位:百万円)	2012/3期		2013/3期			
	2Q累計		2Q累計			
	実績値	実績値	前期比	計画値	計画比	計画差異
売上高合計	8,868	9,320	105.1%	10,590	88.0%	△ 1,269
太陽光発電システム	2,456	6,040	246.0%	6,355	95.0%	△ 314
シロアリ防除施工	2,351	1,312	55.8%	1,732	75.8%	△ 419
床下・天井裏換気システム	1,304	551	42.3%	863	63.9%	△ 312
基礎補修・家屋補強工事	958	326	34.0%	655	49.8%	△ 329
その他	1,797	1,089	60.6%	983	110.8%	106
営業利益	1,639	816	49.8%	1,311	62.3%	△ 494

第2四半期 ES事業部門

■ 既存商品販売は計画水準で推移するも、太陽光発電システムは計画比減収

防錆機器取付施工等、既存商品販売はほぼ計画水準となったものの、太陽光発電システム販売については、従来よりも手続に時間を要する産業用太陽光発電システム案件が増加したため、計画比減収となった。

利益面では、当第2四半期(7月～9月)において計画比増益となったものの、当第1四半期のマイナスをカバーするまでは至らず、当第2四半期累計では営業利益は計画比減益となった。

(単位:百万円)	2012/3期	2013/3期				
	2Q累計	2Q累計		2Q累計		
	実績値	実績値	前期比	計画値	計画比	計画差異
売上高合計	1,341	1,452	108.3%	1,480	98.1%	△ 27
防錆機器取付施工	224	330	147.3%	315	105.0%	15
建物給排水補修施工	412	405	98.4%	460	88.2%	△ 54
建物防水塗装補修施工	208	155	74.4%	150	103.5%	5
太陽光発電システム	178	251	141.0%	266	94.5%	△ 14
その他	316	309	97.6%	289	107.0%	20
営業利益	△ 12	51	—	65	78.5%	△ 13

第2四半期 環境資源開発事業部門

■ 全体的に堅調に推移し、前期比計画比ともに増収増益

プラスチック燃料収入については引き続き堅調に推移したほか、全体的に計画水準で推移。

苫小牧発電所については燃料品質改善の効果等もあり、比較的安定的連続運転が継続できたため、8月に予定していたメンテナンス停止を11月へ延期した。

計画比増収効果に加え、修繕費が想定を下回ったため、営業利益は計画比大幅増益となった。

(単位:百万円)	2012/3期	2013/3期				
	2Q累計	2Q累計		2Q累計		
	実績値	実績値	前期比	計画値	計画比	計画差異
売上高合計	5,243	7,411	141.4%	6,870	107.9%	541
プラスチック燃料収入	2,912	4,449	152.8%	3,948	112.7%	501
有機廃液処理	822	787	95.7%	812	97.0%	△ 24
売電収入	802	1,519	189.4%	1,550	98.0%	△ 30
埋立処分等収入	394	342	86.9%	328	104.4%	14
その他	311	313	100.4%	231	135.2%	81
営業利益	△ 270	792	—	448	177.0%	344

SANIX



**2013年3月期
業績見通し**



2013年3月期 通期業績見通し

※業績見通しについて、
変更はありません。

通期連結業績見通し

売上高	：	38,000百万円	（前期：	31,454百万円）
営業利益	：	2,000百万円	（前期：	409百万円）
経常利益	：	1,970百万円	（前期：	347百万円）
当期純利益	：	1,820百万円	（前期：	13百万円）

HS事業部門

再生可能エネルギー特措法施行後、産業用太陽光発電システムの需要が拡大しているため、ユーザー向け直販の営業人員を一部産業用太陽光発電営業人員としてシフトし、売上高・営業利益ともに当第2四半期累計のマイナスを解消する。

ES事業部門

引き続き、賃貸物件管理会社及び分譲物件管理会社への法人営業を推進するとともに、HS事業部門同様、手続の効率化を図りつつ、産業用太陽光発電システム販売を推進する。

環境資源開発事業部門

苫小牧発電所において、当初予定していた8月度メンテナンスを延期し、11月度にまとめて実施するため、当初計画に比べて11月度の稼働日数が減少するものの、プラスチック燃料収入が引き続き堅調に推移しているため、通期見通しに変更なし。

2013年3月期 通期業績見通し

※業績見通しについて、
変更はありません。

(単位:百万円)	2013/3期							
	第2四半期累計				通期			
	実績値	売上比	前期比	前期比 増減額	計画値	売上比	前期比	前期比 増減額
売上高	18,184	100.0%	117.7%	2,731	38,000	100.0%	120.8%	6,545
H S 部門	9,320	51.2%	105.1%	451	21,375	56.3%	127.2%	4,568
E S 部門	1,452	8.0%	108.3%	111	2,955	7.7%	107.2%	197
環境資源	7,411	40.8%	141.4%	2,168	13,670	36.0%	115.0%	1,779
売上原価	12,338	67.9%	122.6%	2,277	25,035	65.9%	119.1%	4,022
売上総利益	5,846	32.1%	108.4%	454	12,965	34.1%	124.2%	2,523
販管費	5,321	29.3%	103.8%	196	10,965	28.9%	109.3%	932
営業利益	524	2.9%	196.6%	257	2,000	5.3%	488.0%	1,590
経常利益	508	2.8%	214.5%	271	1,970	5.2%	566.1%	1,622
当期純利益	379	2.1%	—	379	1,820	4.8%	—	1,806

2013年3月期 セグメント別損益の見通し

※業績見通しについて、
変更はありません。

(単位:百万円)		2013/3期							
		第2四半期累計				通期			
		実績値	売上比	前期比	前期比 増減額	計画値	売上比	前期比	前期比 増減額
HS 部門	売上高	9,320	100.0%	105.1%	451	21,375	100.0%	127.2%	4,568
	売上総利益	3,456	37.1%	77.2%	△ 1,020	8,430	39.4%	111.4%	861
	販管費	2,640	28.3%	93.0%	△ 197	5,707	26.7%	106.6%	354
	営業利益	816	8.8%	49.8%	△ 822	2,723	12.7%	122.8%	506
ES 部門	売上高	1,452	100.0%	108.3%	111	2,955	100.0%	107.2%	197
	売上総利益	476	32.8%	111.6%	49	1,010	34.2%	112.4%	111
	販管費	425	29.3%	96.9%	△ 13	870	29.4%	101.4%	12
	営業利益	51	3.5%	—	63	140	4.7%	341.7%	99
環境 資源	売上高	7,411	100.0%	141.4%	2,168	13,670	100.0%	115.0%	1,779
	売上総利益	1,912	25.8%	392.2%	1,425	3,525	25.8%	178.6%	1,550
	販管費	1,119	15.1%	147.7%	361	2,140	15.7%	126.9%	453
	営業利益	792	10.7%	—	1,063	1,385	10.1%	481.3%	1,097
配賦 不能	営業利益	△ 1,136	—	—	△ 46	△ 2,248	—	—	△ 112

2013年3月期 HS事業部門見通し

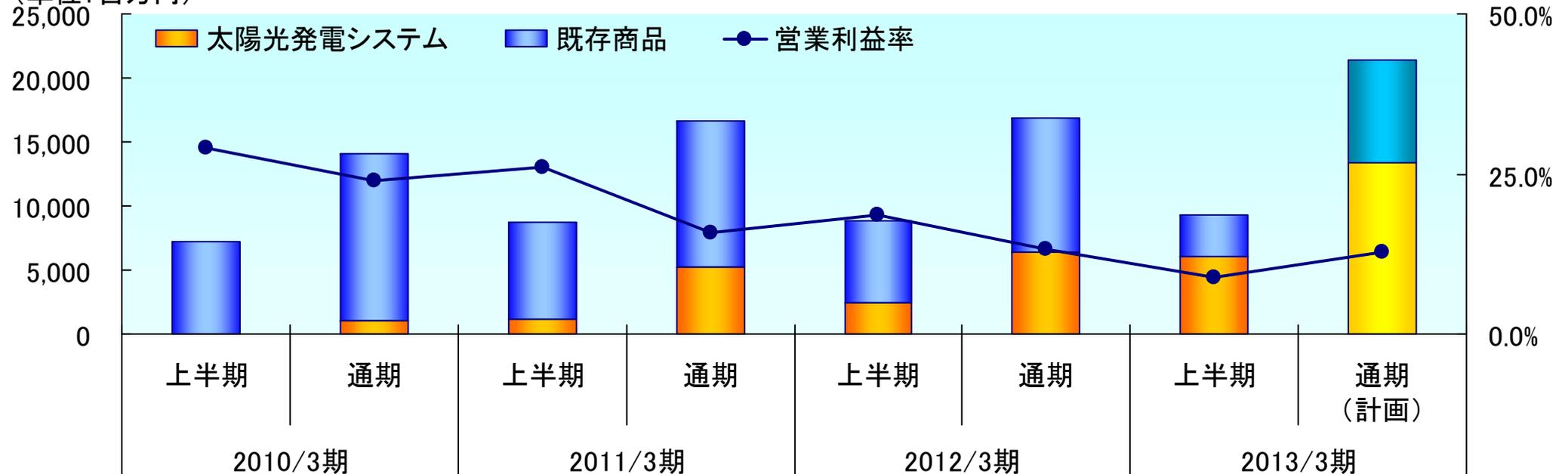
■太陽光発電システム販売

- 中国工場の設備投資により、自社中国製モジュールを増産。中国製モジュールの販売構成比を拡大することにより、利益率改善を図る。
- ユーザー向け直販については、営業人員一人あたりの販売件数が計画水準を上回った為、一部営業人員を産業用太陽光発電システム販売へシフトする。
- 当第3四半期以降の広告宣伝費予算については当初予定を変更し、主に産業用太陽光発電システムのセールスプロモーションに使用する。



■売上高・営業利益率の推移

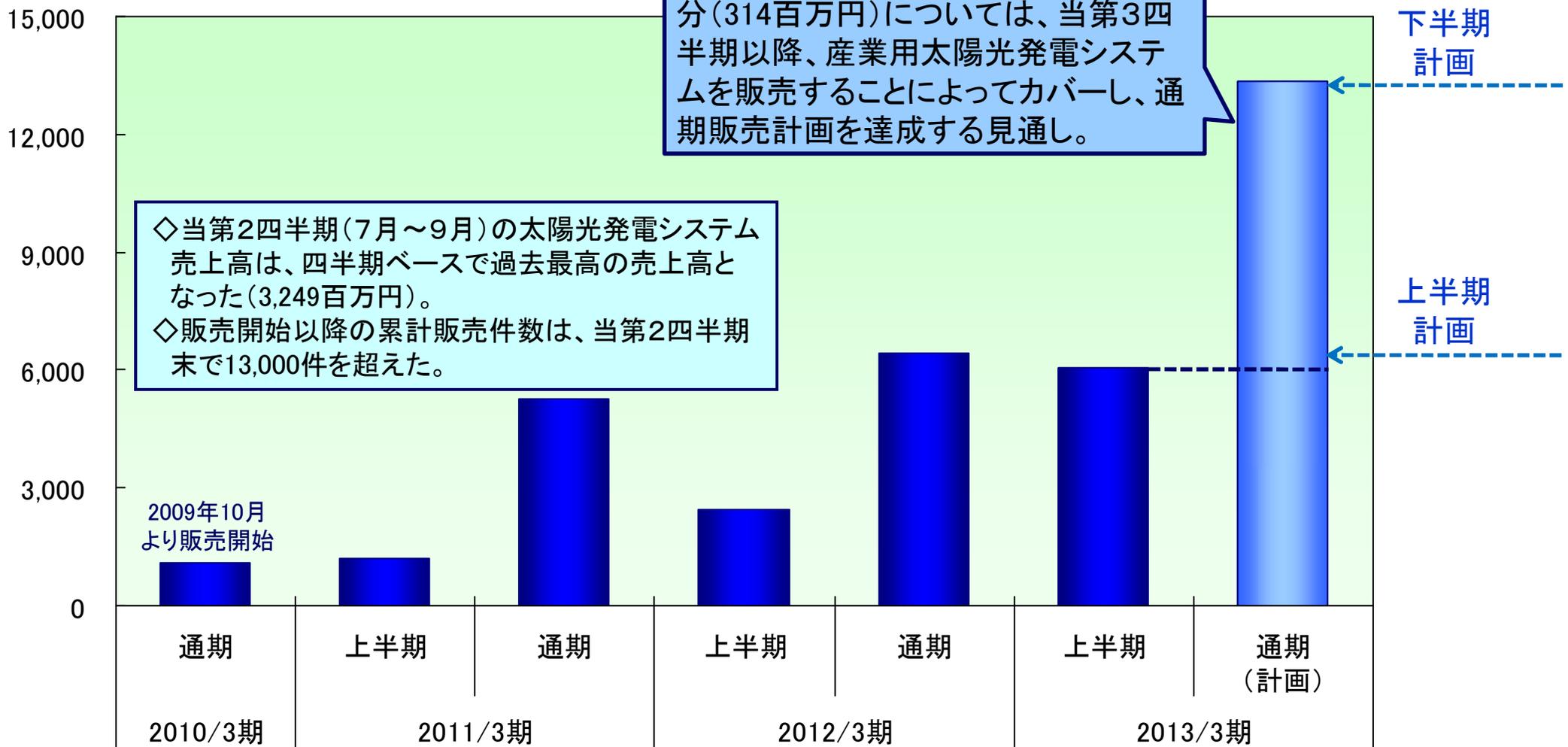
(単位:百万円)



2013年3月期 HS事業部門見通し

■HS事業部門 太陽光発電システム売上高推移

(単位:百万円)



2013年3月期 環境資源開発事業部門見通し

■資源循環型発電事業

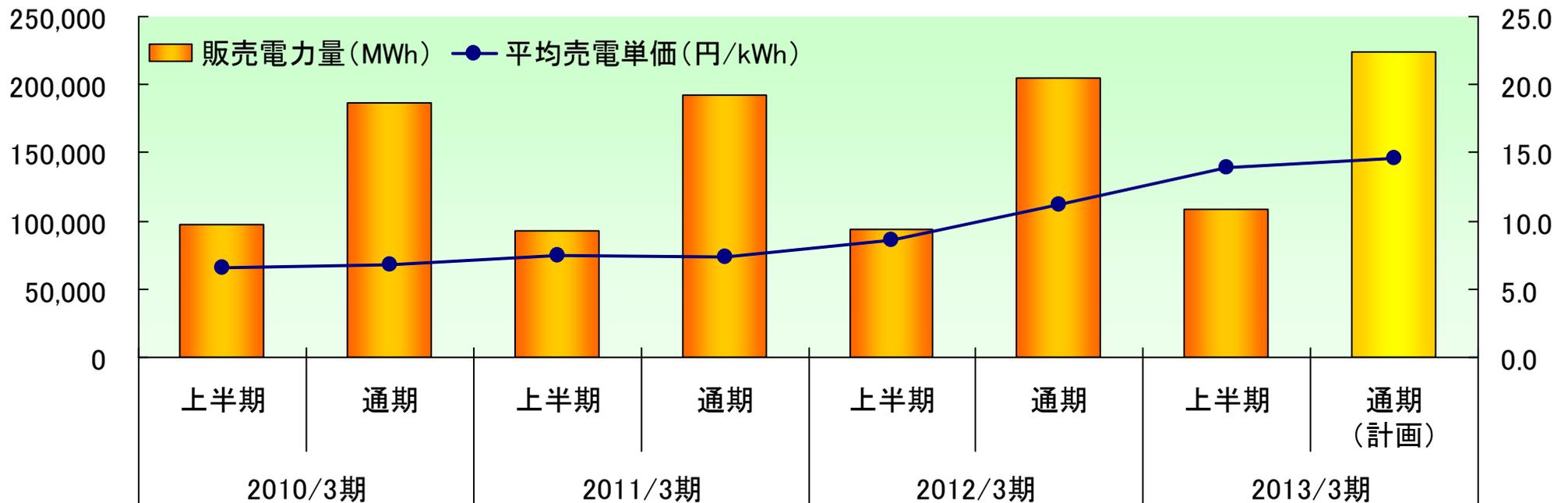
- プラスチック燃料収入については、搬入量が堅調に推移(当第2四半期累計では前年同期比9.0%増)。
- 売電単価については、ほぼ当初想定どおりの水準で推移。
- 11月度のメンテナンス実施以降は、引き続き安定的連続運転を実施し、当第2四半期累計実績と同水準の稼働率を維持。



■苫小牧発電所(売電収入)の主要数値推移

(単位: MWh)

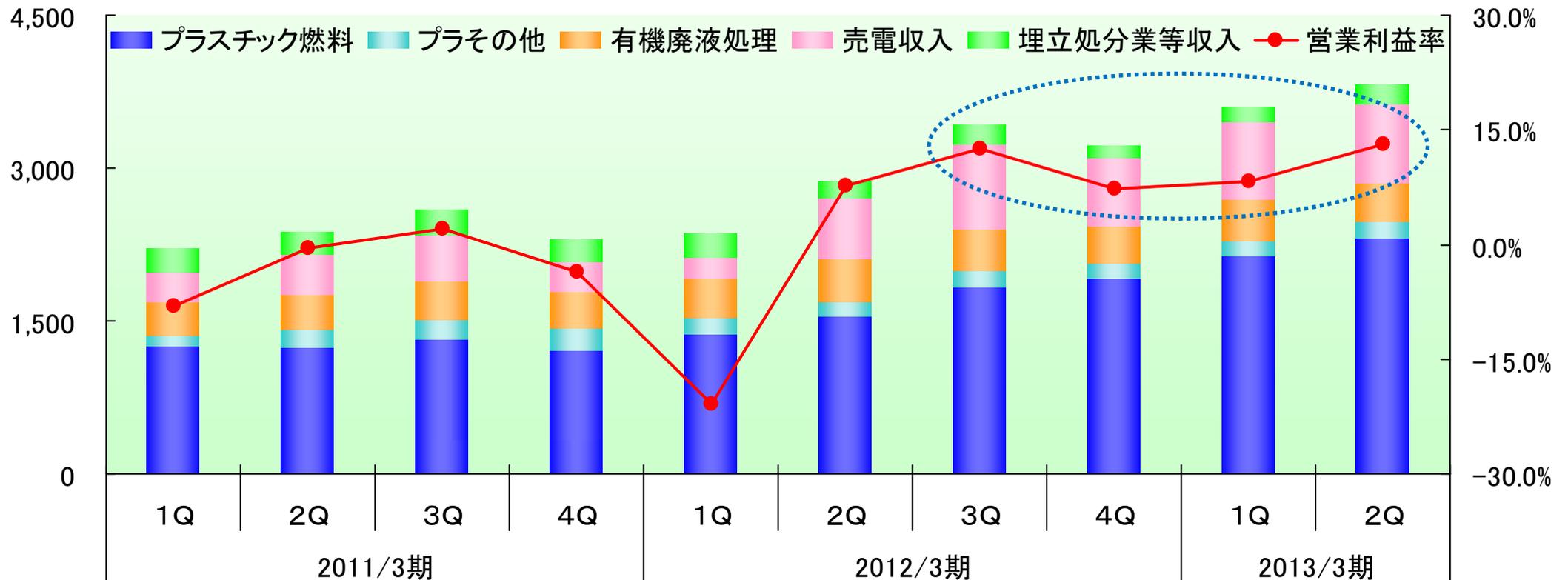
(単位: 円/kWh)



2013年3月期 環境資源開発事業部門見通し

■売上高・営業利益率の推移

(単位:百万円)

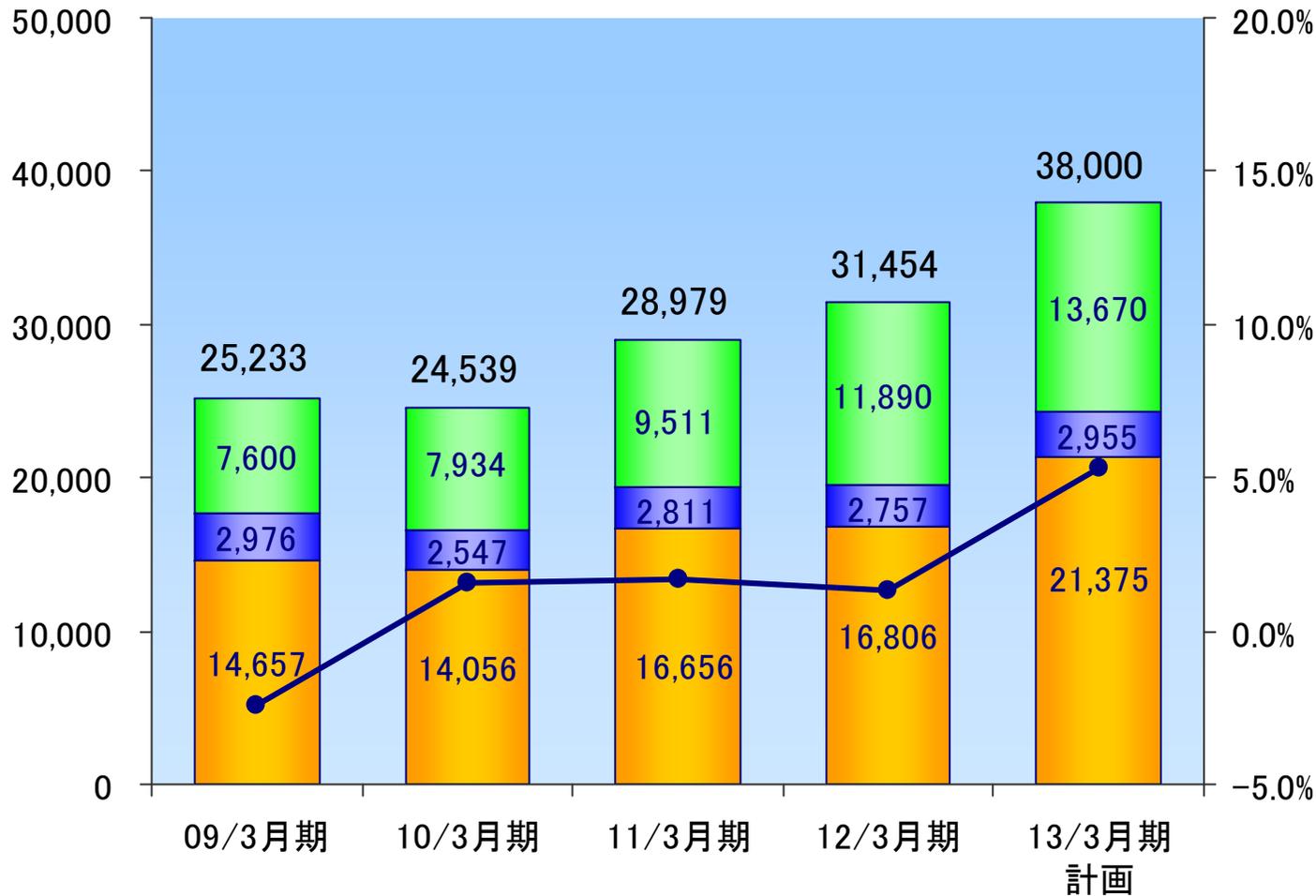


苫小牧発電所においては安定的連続運転を継続し、プラスチック燃料収入については搬入量が堅調に推移していることから、資源循環型発電事業の収益性は改善されており、当第3四半期以降も、引き続き利益体質の維持・強化に努める。

2013年3月期 全社見通し

■セグメント別売上高・営業利益率の推移

(単位:百万円)



2013年3月期見通し

売上高：38,000百万円

営業利益：2,000百万円

営業利益率：5.3%



参考：住宅用から産業用、メガソーラーまで対応

■メガソーラー事業実施に向けて、福岡県宗像市、九州産業大学と協定書を締結

当社は、福岡県宗像市及び学校法人中村産業学園(九州産業大学・九州造形短期大学)との産学官相互協力により、メガソーラー事業を実施することについて基本合意し、「大規模太陽光発電施設の設置及び環境連携に関する協定」を締結。本件事業は来春着工、来期第1四半期末竣工による発電事業開始を予定。

◇設置予定地(九州産業大学グラウンド)



項目	内容等
事業名称	サニックスソーラーパークむなかた
発電能力	約2,000kW(2MW) ※一般家庭600~700世帯分相当
太陽電池モジュール	善日(上海)能源科技有限公司製(295W) 約6,700枚
事業用地所在	福岡県宗像市
土地面積	約37,000㎡
設備投資額	約500百万円

本件事業の実施によって、当社の太陽光発電システム取扱領域は住宅用からメガソーラーまで拡大。今後、マーケットの幅広い需要に対応することが可能となる。

大型案件へ対応し得る技術力を確保、本件事業で得られるデータを当社製品研究開発に利用するほか、地域社会への情報発信、大学の教育研究、環境啓蒙活動等に活用予定。